



JAPANESE JOURNAL OF MATHEMATICS

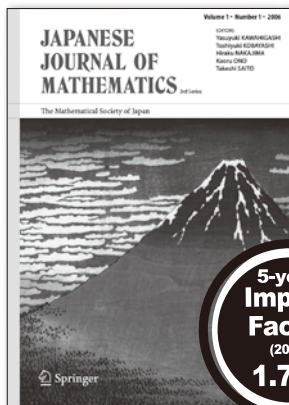
JJMは2005年の存続の危機を乗り越え、継続して出版されることになりました。2006年より3rd Seriesを創刊、最高レベルのサーベイを出版する国際学術誌(年2回発行)として生まれ変わりました。

おかげさまで5周年、今夏、トムソン・ロイター社は5年インパクト・ファクター(2010)でJJMが世界の数学の対象ジャーナル全277誌の中で12位と発表しました。

JJMの5年インパクトファクター : 1.786

Editors

小野 薫 (北海道大学)
河東泰之 (東京大学)
小林俊行 (東京大学)
齋藤 毅 (東京大学)
中島 啓 (京都大学数理解析研究所)



最新号(2011年第6巻2号)を紹介します。

S. グコフ (高木レクチャー)

『ミラー対称性による量子化』

Abstract ミラー対称性と組み合わせることにより、位相的弦理論(A モデル)を用いた量子化の方法からかなり単純でくみやすい問題が得られる。ここでは「コアイソトピック・ A ブレンがミラー対称性のもとで何に対応しているか?」が最も面白い問題となる。表現論やゲージ理論に関係したいくつかの興味深い例、特にミラー側の幾何がラングランズ双対群に自然に対応するような例において、この問題にどのように取り組むか説明したい。ハイパーホモルフックな層と(B, B, B)ブレンは位相的弦理論(B モデル)による量子化において重要な役割を果たす。

C. ケーニツグ (高木レクチャー)

『臨界非線形分散型方程式: 大域存在, 散乱理論, 解の爆発と普遍漸近形』

Abstract スケーリングの意味で臨界な非線形分散型方程式に対し、解の大域的挙動に関する研究の最近の進展を解説する。特に、解の大域存在、散乱理論および有限時間爆発について述べたい。スケーリング臨界ノルムで有界であるが有限時間で爆発する解に対しては、爆発時刻における普遍プロファイルの問題も論じる。

図書委員の先生方へ: 新規購読をおすすめします。

【連絡先】〒110-0016 東京都台東区台東1-34-8 社団法人 日本数学会 Fax: 03-3835-3485
年2回発行 ISSN: 0289-2316 (冊子版) ISSN: 1861-3624 (電子版) 年間購読料 ¥25,000 + 税 / EUR198.00

彌永昌吉先生が100歳で発表された書き下ろしや、アーノルド等の特別寄稿を掲載した創刊号から最新号まで冊子単位でも購入できます。会員割引 ¥7500+税/冊子 もあります。

広く一般の会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。



社団法人 日本数学会

投稿規定は <http://www.springer.jp/JJM/>